

二国間交流事業 セミナー報告書

令和5年4月20日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[日本側代表者所属機関・部局]
国立大学法人千葉大学・大学院医学研究院
[職・氏名]
教授・安西 尚彦
[課題番号]
JPJSBP 220218801

1. 事業名 相手国: 韓国 (振興会対応機関: NRF) とのセミナー

2. セミナー名

(和文) 第23回 韓日薬理学合同セミナー

(英文) The 23rd Korea-Japan Joint Seminar on Pharmacology

3. 開催期間 令和3年 6月 24日 ~ 令和3年 6月 26日 (3 日間)

【延長前】 年 月 日 ~ 年 月 日 (日間)

4. 開催地(都市名)

オンライン開催【および大韓民国(大邱広域市)】

5. 相手国側代表者(所属機関名・職名・氏名【全て英文】)

Kyungpook National University, Professor, InKyoem KIM

6. 委託費総額(返還額を除く) 8,718 円

7. セミナー参加者数(代表者を含む)

	参加者数	うち、本委託費で渡航費または 日本滞在費を負担した場合*
日本側参加者等	33 名	0 名
相手国側参加者等	10 名	0 名

参加者リスト(様式 B2)の合計人数を記入してください。該当がない箇所は「0」または「-」を記入してください。

* 日本開催の場合は相手国側参加者等の日本での滞在費等を負担した場合、相手国開催の場合は日本側参加者等の渡航費を委託費で負担した場合に記入してください。

8. セミナーの概要・成果等

- (1) セミナー概要(セミナーの目的・実施状況。第三国からの参加者(基調・招待講演者等)が含まれる場合はその役割とセミナーへの効果を記載してください。関連行事(レセプション、見学(エクスカーション)その他会合(別経費の場合はその旨を明記。))などがあれば、それも記載してください。各費目における増減が委託費総額の50%に相当する額を超える変更があった場合には、その変更理由と費目の内訳を変更しても計画の遂行に支障がないと考えた理由を記載してください。)

目的:「日韓薬理学会合同セミナー」は、公益社団法人日本薬理学会の国際学術交流事業の基盤であり、日本と韓国の薬理学者の学問的交流を促進するとともに、隣国同士の友好を深め、両国の薬理学を中心とする学問の発展に寄与することを基本的な目的とする。

概要:令和3(2021)年6月にオンライン開催された第23回韓日薬理学会合同セミナーは、同時期に大韓民国大邱広域市にて開催された韓国薬理学会 KSP が参加する 28th Federation Meeting of Korean Basic Medical Scientists 2021(第28回韓国基礎医学者連合会 FKKBMS-2021, 6/24-25)の KSP 企画 Korea-Japan Joint Session として開催された。

第23回韓日薬理学会合同セミナー初日の6/24(木)は、FKKBMS-2021として実施された2名のノーベル賞受賞者による基調講演 Nobel Laureate lecture1. “Great journey for hepatitis C virus” (Dr. Michael Houghton, PhD)、および Nobel Laureate lecture2. “Neural mechanisms for space and time: A journey into the brain’s entorhinal cortex” (Dr. May-Britt Moser, PhD)があり、日本側参加者はオンラインで講演の聴講を行った。

2日目の6/25(金)は、13:50-17:35 に、2つの Special lectures、4つの Oral presentation、6つの Short oral presentation がオンラインにて実施された。韓国側と日本側から同数の発表がなされた。

3日目の6/26(土)は、オンラインにて 23rd KJJSP ePoster Award 受賞者が発表され、最優秀発表賞(得票数同数のため両者を選出)2名(Rinako Tanaka, Maihulan Maimaiti)、優秀発表賞5名(Shogo Tanabe, Nobuyoshi Matsumoto, Nao Kitamura, Rui Yamada, Marika Hirata)が表彰された。

尚、オンライン開催となったことで、委託費の支出が大幅に減額となった。各費目の変更理由とともに記す。

- ・外国旅費:韓国で開催されたセミナーのオンライン開催に伴い、韓国への出張を行わず旅費支出がなかったため。オンライン開催のために計画遂行に支障は無かった。
- ・国内旅費:セミナー前の準備会およびセミナー後の整理会がオンラインで開催されたため、国内出張を行わず旅費支出がなかったため。オンライン開催のために計画遂行に支障は無かった。
- ・物品費:韓国で開催されたセミナーおよび前後の準備会・整理会のオンライン開催により、支出が大幅に減額された。ePoster Award 受賞者表彰のための証書ホルダー、賞状印刷用紙、賞状発送費用で総額8,718円の支出を行うことで計画遂行に支障は無かった。
- ・謝金:韓国で開催されたセミナーおよび前後の準備会・整理会のオンライン開催により、支出が大幅に減額された。計画遂行に支障は無かった。
- ・その他:韓国で開催されたセミナーおよび前後の準備会・整理会のオンライン開催により、支出が大幅に減額された。計画遂行に支障は無かった。

(2) 学術的価値(セミナーにより得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果)

2名のノーベル賞受賞者による基調講演を聴講できたことにより、C 型肝炎治療および時空間のニューラルメカニズムに関する最新の知見を学び、今後の創薬研究への展開の一助となることが期待できる。

また日韓双方から薬理学の幅広い分野に関する研究発表がなされることで、類似の研究のさらなる発展と創薬基盤の強化につながる。

(3) 相手国との交流(両国の研究者が協力してセミナーを開催することによって得られた成果)

2019 年 3 月に大阪で開催された第 22 回日韓薬理学会合同セミナーの2年後となる 2021 年に、第 23 回をオンライン(韓国)にて開催することで、1982 年に第 1 回(韓国釜山市)を開催して以来、日本と韓国において交互に開催されてきた伝統ある二国間交流の継続により友好を培う絶好の機会が得られ、相互理解を深めることで、時々の政治・経済状況に左右されない確かな友好関係を保つことに貢献する。

(4) 社会的貢献(社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献はどのようにあったか)

本セミナー実施により、薬理学の目的である「薬を通じたヘルスケア」を目指して、日韓両国の薬理学者が主体となって一同に会し、相互に研究成果を発表し討論する機会を設けることは、日韓両国にとって必要な新しい医薬品の創製につながり、その成果は両国にとどまらず世界各国のヘルスケアに多大なる貢献をもたらすことが期待される。

(5) 若手研究者養成への貢献(若手研究者養成への取組、成果)

参加した若手研究者は日韓双方にとって外国語である英語というツールを用いる国際コミュニケーションの能力を磨く機会を得てこれまで活字の上でしか認識していなかった他国の研究者が同じ目標を持ち、同じ課題を抱えていることを学ぶことで、国際性の育成と意識の向上に寄与しつつ双方の学会の中軸へと育つ学問領域の継続性にも貢献する。

(6) 将来発展可能性(本事業を実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

本セミナーを契機として、国境を隔てた両国間での共同研究の推進や研究者の受け入れが促進され、両国の薬理学研究の活性化に貢献することも期待されるだけでなく、日本薬理学会が別途実施している日中交流との連携を進めることで、東アジア三国、さらにはその枠を越えて他のアジア諸国からの薬理学者の参入を呼び起こす契機となり、新たな共同研究と研究者交流の進展から「アジアからの創薬」へと向かう新たな潮流の端緒となる可能性がある。

(7) その他(上記(2)～(6) 以外に得られた成果(論文発表等含む)があれば記載してください)

特記事項なし